大蔵寺の木造阿弥陀如来立像

【所　在　地】曽於市末吉町二之方２１６１　大蔵寺
【種　　別】県指定有形文化財（彫刻）
【指定年月日】平成２８年４月１９日

本像は，ヒノキ材とみられる針葉樹材製で，一木造り，像高 62.5 ㎝の木造阿弥陀如来像である。

大蔵寺（浄土真宗本願寺派，曽於市末吉町二之方）にまつられている仏像であり，寺記によれば，嘉吉２(1442)年に，大蔵寺開山・了願が京都において本願寺七世存如より「大蔵寺」寺号を授かり，帰郷に際して本像を持ち帰ったと伝えられている。

鹿児島県内の鎌倉時代（13 世紀～14 世紀前半）仏像としては，薩摩川内市・長崎公民館の木造観音菩薩・勢至菩薩像（阿弥陀三尊像の脇侍菩薩像）をはじめとして，京都で制作されて奉渡されたものが数例知られている。

大蔵寺阿弥陀如来像は，ほぼ同時期の作と思われる仏像に比較すると，やや素朴な作風を示しており，本像の作者が京都の中核的な仏師であったとは考えにくい。京都から捧持したという厨子天板の銘文によるならば，畿内周辺で活動しつつ地方からの需要にも応えていた仏師の手になるものと想像されるところである。

制作地の断定はできないが，本県は廃仏毀釈の影響もあり，中世彫刻の数も少ないことから稀少価値も高く，貴重な存在といえる。